

いなむら市長の「い〜なこの街 尼崎」 2月

テーマ：「平成 24 年度の新規・拡充事業の案」について

DJ(林)

さて、来年度に尼崎市が実施する事業の案が、決まったそうですね？

市長

はい、そうなんです。

DJ(林)

そこで今回は「平成 24 年度の新規・拡充事業の案」をテーマに、来年度に尼崎市が実施する新しい事業や、これまでの事業の中から、更に内容を充実させる拡充事業についてお話を伺いたいと思います。

市長

はい。みなさんもよく耳にしていると思うんですが、尼崎市の行財政運営は大変厳しい状況にあるんです。

こういった状況は、これからしばらく続く見込みなんですけれども、来年度、平成 24 年度の予算編成にあたっては、私が市長に就任して以来ずっと基本姿勢にしてきました「目先だけではなく未来を見据えて、一步一步着実に」といった姿勢を根本に据えて取り組みを進めてきました。

新たな施策については防災対策など、喫緊^{きつぎん}に取り組むべき行政課題に対応をしつつ、平成 25 年度からの新たな街づくり総合計画や次期行財政改革にかかる計画の策定を見据えて、中長期的な視点も踏まえて調整を行いました。

尼崎市は、法人税への依存度が高いんですけれども、世界的な経済不況の影響で市税収入の減収傾向が続いています。

一方で、歳出面では、市民生活の悪化による生活保護費が急増するなど高齢化等による自然増とあいまって、扶助費が大幅に増加しています。

このような現状を踏まえますと、今後はこれまでのような経費削減の改革に加えて地域経済の活性化や現役世代の定住・転入促進による税源^{かひよう}の涵養、就労支援や健康増進といった、市民の生活支援に取り組み、歳入・歳出の両面で不況の影響を受けやすい都市の体質そのものの転換を目指していかなければならないと考えています。

平成 24 年度はこのような考え方に基づいて、新たな総合計画、そして次期行財政改革計画の策定に取り組むとともに、この 1 年を平成 25 年度からの本格的な施策展開に向けた布石を打つための重要な 1 年ととらえ、私が掲げてきました「コンパクトで持続可能なまち」「信頼と分かち合いのまち」「市民自治のまち」という 3 つの柱に沿って、計画の考え方を先取りをして、取り組みを進めていきたいと思っています。

DJ(林)

はい。それでは、具体的にどのような事業を進めていく予定でしょうか？

市長

はい。地域経済の活性化をはかる、尼崎版グリーンニューディールにかかる、調査検討事業、子ども医療費や学童保育の時間延長、そして集いの広場の拡充や一時預かりの実施、学力向上クリエイティブ事業の拡充をはじめとする子育て支援策の強化、そして、そういった取り組みやわが町尼崎の魅力を効果的に発信するための、シティプロモーションなどを展開していきます。

合わせて、災害時、要援護者支援事業の展開を見据えた地域福祉活動専門員の増員や、若年層への就労支援、生活保護受給者に対する居場所づくりなど、引き続き市民の安心や自立に向けた生活支援に取り組んでいきます。

また、過去の借金の返済である公債費が現在の財政を圧迫しています。

そこで、一定の財政規律のもとで、将来に過剰な負担がかからないように必要な耐震化や機能向上を図ります。

公的施設の最適化などに取り組むとともに、市民意見聴取の新たな取り組みや市民参加による事業棚卸を実施し、丁寧な対話と参加を基本姿勢に、より良い政策形成を図っていきたいと思っています。

こうした事業を含め平成 24 年度予算案をこれから尼崎市議会に提案をしていきます。

ここで議決をいただきませんと実施していくことができませんので、しっかりと説明責任を果たし、また、様々なご意見をしっかりと受け止めながら理解を求めていきたいと考えています。

DJ(林)

そうですね。これからまた、お忙しくなりそうですけれども、ぜひとも頑張ってより良い尼崎市にしていっていただきたいと思います。

市長

はい、ありがとうございます。厳しい状況が続いてはいますけれども、未来を見据えて、私達の、そして子供たちの未来のためにしっかりと一步一步改革を進めていきたいと、そういった気持ちを新たにしています。

DJ(林)

はい。それでは稲村市長、本日もありがとうございました。

市長

はい、ありがとうございました。